



新本っ子

学校通信 No. 13
令和5年6月発行
新本小学校

【学校教育目標：豊かな人間性をもち、実践力のある子どもを育成する】 令和5年6月13日

新 自分で考える子 **本** 本気で取り組む子 **義** きまりを守る子 **民** みんな仲良く元気な子

水泳シーズン到来 ～全校でプール開き～



9日(金)、3時間目に全校でプール開きを行いました。心配された雨も上がり、予定通りの実施となったプール開き。

プールサイドに学年ごとに整列、体操座りで整然と待つ児童からは、これから始まる水泳学習への期待や意気込みが伝わってきました。

水泳学習にあたっての講話、諸注意、模範泳(6年児童のクロール、平泳ぎ)の後、準備体操、シャワーで準備を整え、全校一斉にゆっくり入水。まず始めに全員で(大プールともに)左回りに旋回。流れができると逆方向に旋回。冷たさや流れなど、水の感触や心地よさを体感し、大きな歓声が沸き起こります。

いよいよ水泳シーズンの到来です。1学期末まで行われる水泳学習。短い期間ですが、水遊び(低学年)や水泳運動(中・高学年)を楽しく頑張る中で、できることが増えたり、泳力が向上したりすることを期待しています。

思いやり【6月講話(6月5日)】

(前略)「思いやり」にちなみ、「幸せのバケツ」というお話をします。幸せのバケツは目には見えないけれど、世界中の誰もが持っています。

なぜ、幸せのバケツを持っているのでしょうか。それはよい心や温かい気持ちを入れておくためです。バケツがいっぱいになると、とても幸せな気持ちになります。でも、バケツが空っぽになると、悲しく、とても寂しくなります。だから、みんな、バケツを幸せでいっぱいにしたいと願います。では、どうすればバケツをいっぱいにするのでしょうか。



その前に、幸せいっぱいのバケツには何がつまっているのか見てみましょう。「ありがとう」「助かった」「頑張れ」「もう少し」「大丈夫」「心配いらないよ」「おめでとう」「すごいね」「いいよ」「いっしょにやろう」「よかったね」「ごめんね」…。感謝、励まし、ほめる、讃える、親切など、思いやりに満ちた言葉が入っていますね。これは友だちや周りの人のバケツです。

誰かにやさしい言葉を伝えたり、親切にしてあげたり、微笑みかけたりすると、「幸せのバケツ」は、思いやりの言葉や気持ちでいっぱいになります。そして誰かのバケツを幸せでいっぱいにすると、不思議なことに自分のバケツもいっぱいになります。これがバケツを幸せでいっぱいにする方法です。

人を幸せにすると、自分も幸せになるのです。これが、バケツを幸せでいっぱいにする方法です。みんなのバケツがいっぱいになり、毎日幸せな気持ちで過ごせるといいですね。(後略)